

II 関連資料

北海道脳卒中における急性期医療実態調査 実施要綱

(目的)

第1 北海道医療計画に定めた脳卒中における急性期医療の医療機能のうち、超急性期治療の実態を把握し、医療機能の検証や医療連携体制の充実に向けた検討を行うことを目的とする。

(実施主体)

第2 北海道、北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会循環器疾患対策小委員会

(調査対象機関)

第3 (1) 北海道医療計画において公表された脳卒中の急性期医療を担う機関及び北海道医療機能情報システムにおいて脳神経外科を標榜し、急性期の医療機能を担う医療機関
(2) 北海道医療計画において公表医療機関がない第二次医療圏については、地域センター病院を対象とする。(5圏域：南檜山、日高、富良野、遠紋、根室)

(内容)

第4 北海道脳卒中における急性期医療実態調査票に基づき、超急性期の急性期医療の実態(初期治療及び専門治療の実施状況、超急性期における医療機関の連携状況等)を把握するものとする。

(方法)

第5 調査対象機関は、調査期間中に受診した発症後24時間以内の全ての脳梗塞患者について、患者ごとに調査票を作成し、北海道に提出するものとする。

2 調査期間

平成30年11月1日から平成30年11月30日まで

3 調査項目

	調査項目	設問
I	医療機関の状況	医療機関名、所在地、連絡先、事務担当者名、脳卒中の診療に従事する医師数(常勤、非常勤及び出張医)、脳神経外科専門医及び日本脳神経血管内治療学会認定専門医)の人数等
II	患者属性及び発症時の状況	(1)年齢、(2)性別、(3)発症日時、(4)発症地市町村名
III	受診の状況	(1)受診手段、(2)救急搬送の状況(救急要請時間、現場到着時間、医療機関の到着時間)、(3)他の医療機関経由の有無(経由した医療機関名)
IV	診断の状況	(1)診断確定時間、(2)主幹動脈閉塞の有無(部位)、(3)来院時の意識障害、(4)来院時の重症度、(5)他医療機関へ転送の有無(転送した医療機関名)

V	治療の状況	(1)t-PA 治療の有無（治療実施施設、治療開始時間）、(2)脳血管内治療の有無（治療実施施設、他医療機関へ転送の有無）、(3)脳血管内治療の実施状況（治療開始時間、再開通の時間、再開通の程度）
VI	血管内治療を実施しない理由	*調査項目Vで「脳血管内治療なし」と記載した場合に回答
VII	退院時の状況	発症後1週間経過のmRSスコア（0～6）、不明

5 実態調査票の配布・回収及び集計

北海道は、調査対象機関の協力のもと、調査票の配布・回収を実施し、結果の集計及び分析は北海道大学に依頼する。分析結果を基に、北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会循環器疾患対策小委員会（以下「委員会」とする。）が検証を行う。

（データの取り扱い）

第7 本調査に係る全てのデータは分析業務のみに使うものとし、データは道が保管する。

2 調査結果の集計及び分析に協力する北海道大学とのデータの受け渡し等については、道と北海道大学の間で別添定める。

（調査結果の公開）

第8 調査結果にかかる情報の公開は、委員会で検討した結果を踏まえ、道から各保健所、関係する医療機関等に資料として提供した日から可能とする。

（調査結果の活用）

第9 本調査の分析結果については、調査協力医療機関名の保護に十分配慮した上で、委員会が、脳卒中急性期の医療機能に係る取組の向上に寄与する目的のみに利用する。

北海道脳卒中における急性期医療実態調査票

No.

事務担当者記載欄	医療機関名					
	所在地					
	事務担当者	部署		担当者名		
	電話		FAX			
	e-mail (任意)					
I 医療機関の状況 ※本項目は、初回の調査票のみ回答してください(2枚目以降の調査票は省略可)						
		常勤	非常勤/出張医	【再掲】専門医の人数		
脳卒中の診療に従事する医師数(専門医・出張医含む)		名	名			
【内訳】	脳神経外科医	名	名	脳神経外科専門医の人数	常勤 名	非常勤/出張医 名
	神経内科医	名	名	日本脳神経血管内治療学会認定専門医の人数	名	名
	内科医	名	名		名	名

以下の項目は、患者ごとに記載してください

II 患者属性 及び 発症時の状況

(1) 年齢 歳
 (2) 性別 (男・女) (男・女)
 (3) 発症日時 (月日) 月 日 時 分
 (4) 発症地 (市町村名のみ)

不明
※番地は不要

III 受診の状況

(1) 受診手段 ※あてはまるものに○ (2) 救急搬送の状況

a. 救急車

b. 消防防災ヘリ

c. ドクターヘリ

d. 自家用車

e. タクシー

f. 独歩

g. その他・不明

※消防機関からの傷病者引継書(写)より転記
※a~cに回答した場合に記載

① 救急要請時間 月 日 時 分

② 現場到着時間 月 日 時 分

③ 医療機関の到着時間 月 日 時 分

(2) 他医療機関経由の有無 (貴院到着前に経由した医療機関を、全て記載)

a. 経由なし

b. 経由あり (医療機関名:)

IV 診断の状況

(1) CT・MRI等による診断確定時間 月 日 時 分

(2) 主幹動脈閉塞の有無

a. あり (閉塞部位:) b. なし c. 不明

(3) 来院時の意識障害

a. あり b. なし c. 不明

あてはまる項目に、
☑を記載してください

JCS (ジャパン・コマ・スケール)

I 刺激しないでも覚醒している状態

1点 だいたい意識生命だが、今ひとつはっきりしない

2点 見当識障害がある

3点 自分の名前、生年月日が言えない

II 刺激すると覚醒するが刺激をやめると眠り込む状態

10点 普通の呼びかけで容易に海岸する

20点 大きな声または体を揺さぶることにより開眼する

30点 痛み刺激を加えつつ呼びかけを繰り返すと、かろうじて開眼する

III 刺激をしても覚醒しない状態

100点 痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする

200点 痛み刺激で少し手足を動かしたり、顔をしかめる

300点 痛み刺激に反応しない

裏面の記入も
お願いします

(4) 来院時の重症度 (GCS : グラスゴー・コーマ・スケール)

あてはまる項目に、☑ を記載してください

GCS (グラスゴー・コーマ・スケール)

E 開眼機能 (Eye Opening)

- 4点 自発的にまたは普通の呼びかけで開眼
- 3点 強く呼びかけると開眼
- 2点 痛み刺激で開眼
- 1点 開眼せず

V 発語機能 (Best Verbal Response)

- 5点 見当識が保たれている
- 4点 会話はできるが見当識が混乱
- 3点 発語はあるが会話は成立しない
- 2点 理解不明の声
- 1点 発語せず (挿管などで発語困難の場合も含む)

M 運動機能 (Best Motor Response)

- 6点 命令に従って四肢を動かすことができる
- 5点 痛み刺激に対して手で払いのける
- 4点 指への痛み刺激に対して四肢をひっこめる
- 3点 痛み刺激に対して緩徐な四肢屈曲反応
- 2点 痛み刺激に対して緩徐な四肢伸展運動
- 1点 まったく動かず

(5) 他医療機関へ転送の有無 (貴院から、他医療機関に転送しましたか)

- a. 転送なし
- b. 転送あり (医療機関名: _____)

V 治療の状況

(1) t-PA治療の有無

- a. 自施設で実施 → 治療開始時間

月	日	時	分
---	---	---	---
- b. 他医療機関で実施 → 医療機関名 (_____)
- c. なし

(2) 脳血管内治療の有無

- a. 自施設で実施
- b. 他医療機関で実施
- c. なし (→設問V)

(3) 脳血管内治療の実施状況 (※自施設で実施した場合のみ)

- ① 治療開始時間

月	日	時	分
---	---	---	---
- ② 再開通の時間

月	日	時	分
---	---	---	---
- ③ 再開通の程度

あてはまる項目に☑を記載してください

TICIグレード (Thrombolysis in cerebral infarction)

- TICI 0 再灌流なし
- TICI 1 再開通を認めるが末梢の血流がないかゆつくり灌流される
- TICI 2A 50%未満の再灌流
- TICI 2B 50%以上の再灌流
- TICI 3 完全再開通

VI 脳血管内治療を実施しない理由 (※IV(2)「脳血管内治療の有無」で、「c.なし」と回答した場合のみ)

- ① 自施設での治療が困難であり、治療可能な医療機関と連携体制が出来ていないため
- ② 脳血管内治療の適応外であるため
- ③ ①②以外で、医師の判断による
- ④ 患者・家族の同意が得られなかったため
- ⑤ その他 (_____)

VII 発症後1週間経過の状況

mRSスコア (0~6) ※あてはまるものに○

- 0 全く症候がない
- 1 症候はあっても明らかな障害はない (日常の勤めや活動は行える)
- 2 軽度の障害 (発症以前の活動が全て行えるわけではないが、自分の身の回りのことは介助なしに行える)
- 3 中等度の障害 (何らかの介助を必要とするが歩行は介助なしに行える)
- 4 中等度から重度の障害 (歩行や身体的要求には介助が必要である)
- 5 重度の障害 (寝たきり、失禁状態、常に介護と見守りが必要とする)
- 6 死亡
- 7 不明

ご協力ありがとうございました 

北海道脳卒中における急性期医療実態調査 調査協力医療機関一覧

第三次医療圏	第二次医療圏	市区町村	医療機関	備考	
道 南	南 渡 島	函 館 市	医療法人社団 函館脳神経外科病院		
			医療法人 雄心会 函館新都市病院		
			市立函館病院		
			函館中央病院		
	南 檜 山	江 差 町	北海道立江差病院	地域センター病院	
	北渡島・檜山	八 雲 町	八雲総合病院		
道 央	札 幌 幌	札幌市 中央区	市立札幌病院		
			社会医療法人 医仁会 中村記念病院		
			北海道公立大学法人 札幌医科大学付属病院		
			社会医療法人社団カレスサッポロ 時計台記念病院		
		札幌市 北区	北海道大学病院		
			医療法人社団 北匠会 札幌北脳神経外科		
		札幌市 東区	社会医療法人 禎心会 札幌禎心会病院		
			医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院		
			コスモ脳神経外科		
			医療法人 札幌麻生脳神経外科病院		
				勤医協中央病院	
		札幌市 白石区	特定医療法人 医翔会 札幌白石記念病院		
		札幌市 厚別区	医療法人 新さつぼろ脳神経外科病院		
		札幌市 豊平区	医療法人 柏葉脳神経外科病院		
			KKR札幌医療センター		
		札幌市 南区	社会医療法人 医仁会 中村記念南病院		
			医療法人一仁会 南札幌脳神経外科		
		札幌市 西区	医療法人明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院		
			独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター		
			医療法人社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院		
			北海道大野記念病院		
		札幌市 手稲区	医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院		
			医療法人 秀友会 札幌秀友会病院		
		江 別 市	医療法人 湊和会 江別病院		
		石 狩 市	医療法人財団 幸悳会 石狩幸悳会病院		
		千 歳 市	市立千歳市民病院		
			医療法人社団豊友会 千歳豊友会病院		
		恵 庭 市	医療法人 北農会 恵み野病院		
後 志	小 樽 市	小樽市立病院			
		医療法人社団 北匠会 小樽中央病院			
南 空 知	岩見沢市	岩見沢市立総合病院			
		医療法人 萌佑会 岩見沢脳神経外科			
中 空 知	滝 川 市	医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院			
	砂 川 市	砂川市立病院			
北 空 知	深 川 市	深川市立病院			

第三次医療圏	第二次医療圏	市区町村	医療機関	備考	
	西胆振	室蘭市	市立室蘭総合病院		
			大川原脳神経外科病院		
	東胆振	苫小牧市	医療法人 王子総合病院		
			医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院		
			苫小牧市立病院		
			医療法人社団 苫小牧東部脳神経外科		
	日高	浦河町	浦河赤十字病院	地域センター病院	
	道北	上川中部	旭川市	旭川医科大学病院	
				旭川赤十字病院	
				旭川脳神経外科循環器内科病院	
大西病院					
医療法人 元生会 森山病院					
医療法人社団 杏仁会 大雪病院					
上川北部		名寄市	名寄市立総合病院		
富良野		富良野	北海道社会事業協会富良野病院	地域センター病院	
留萌		留萌市	社会医療法人 孝仁会 留萌セントラルクリニック		
宗谷		稚内市	社会医療法人 禎心会 稚内禎心会病院		
	枝幸町		枝幸町国民健康保険病院		
	礼文町		利尻島国保中央病院		
オホーツク	北網	北見市	北見赤十字病院		
			小林病院		
			社会医療法人 明生会 道東脳神経外科病院		
	遠紋	網走市	社会医療法人 明生会網走脳神経外科・リハビリテーション病院		
			紋別市	広域紋別病院	地域センター病院
			遠軽町	遠軽厚生病院	地域センター病院
十勝	十勝	帯広市	社会医療法人 北斗 北斗病院		
			JA北海道厚生連 帯広厚生病院		
釧路・根室	釧路	釧路市	社会医療法人 孝仁会 釧路孝仁会記念病院		
			市立釧路総合病院		
			独立行政法人労働者健康安全機構 釧路労災病院		
	根室	根室市	市立根室病院	地域センター病院	
			中標津町	町立中標津病院	地域センター病院
6圏域	21圏域	39市区町	73		

令和元年度(2019年度) 北海道総合保健医療協議会
地域保健専門委員会循環器疾患対策小委員会名簿

(五十音順:敬称略)

氏名	所属	区分	備考
安 齊 俊 久	北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学教授		
大 川 洋 平	社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院院長		
岡 部 實 裕	北海道医師会常任理事		
中 村 博 彦	北海道病院協会理事長		
橋 本 洋 一	北海道医師会常任理事		
長谷部 直 幸	旭川医科大学内科学講座循環・呼吸・神経病態内科学分野教授		
寶 金 清 博	北海道大学大学院保健科学研究院 高次脳機能創発分野特任教授	委員長	
丸 山 純 一	医療法人社団shindo 旭川リハビリテーション病院院長		
萬 年 清 隆	全国消防長会北海道支部支部長		
三 浦 哲 嗣	札幌医科大学医学部循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座教授	副委員長	
三 國 信 啓	札幌医科大学医学部脳神経外科学講座教 授		
水 谷 匡 宏	北海道医師会常任理事		

分析協力者

氏名	所属	区分	備考
長内 俊也	北海道大学大学院医学研究院 助教 神経病態学分野脳神経外科学教室 医局 長		

おわりに

今回の調査では、脳卒中の超急性期において、治療内容の他に、患者の重症度、治療後の転帰との関係についても分析を行いました。

治療の必要性を速やかに判断し、専門的医療機関に搬送する体制を構築することや、2次医療圏で完結できない場合の近隣医療圏との連携の必要性、発症時点での重症度が予後に大きく影響していることが明らかになり、これらの結果を各地域の関係機関の皆様が共有しながら、必要な対応策について協議を進めることが重要であると考えます。

当委員会としても、今後、北海道医療計画の見直しや循環器病対策推進計画の策定において、医療連携体制の構築に向けた検討に本調査結果を活用してまいります。

最後に、本調査に御協力いただいた道内の各医療機関の皆様、集計・分析に御協力いただいた北海道大学大学院医学研究科脳神経外科学分野に深く感謝いたします。

北海道脳卒中急性期医療実態調査報告書

編集 北海道保健福祉部健康安全局地域保健課がん対策係

TEL 011-231-4111 (内線25-528)

FAX 011-232-2013

発行 令和2年(2020年)8月